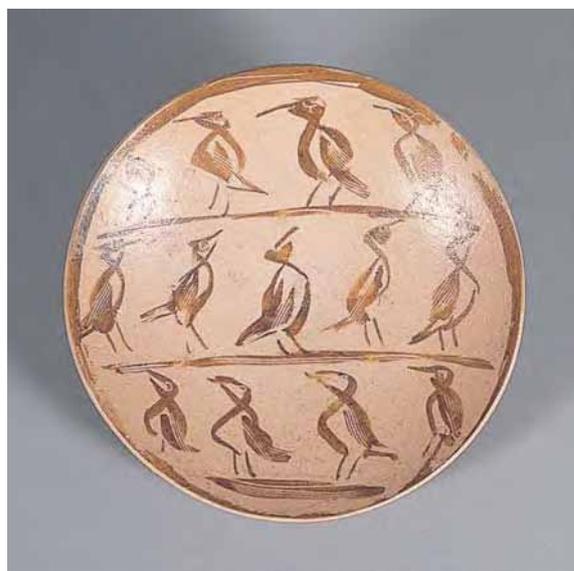




鴨居玲「ピエロ」  
—特集展示「鴨居玲—道化師たち—」より—



石黒宗麿「鉄絵鳥文鉢」昭和35年頃  
—特集展示「絵画的意匠の展開」より—

特別陳列

■ 加賀藩の美術工芸

■ 仏画と肖像画

■ 鴨居 玲 —道化師たち—

■ 絵画的意匠の展開

■ 首と肖像彫刻を中心に

- 9月の行事予定
- 今月の企画展示室
- ワークショップのご案内
- 展覧会回顧
- 企画展Topics
- 文化財現地見学 募集要項
- ミュージアムレポート

特別陳列

# 加賀藩の美術工芸

9月3日(水)~23日(火・祝) 会期中無休

前田育徳会  
尊經閣文庫分館

## 学芸員の眼

「加賀藩の美術工芸」は前田育徳会尊經閣文庫分館の定番展示として、ここ数年来「百工比照」を分野別に公開してきました。毎年そのことを楽しみにしておられるかたも多く、誠に心苦しいのですが今年も「百工比照」を展示しません。その理由は、来年春の北陸新幹線開業を記念して開催する企画展に、まとまった形で公開される予定があるからです。しかし今年も、たとえば後藤家歴代の装剣小道具という別の見所を用意しています。作品は、目貫、筭、小柄からなる三所物が主で、外面的な華やかさはないかも知れませんが、初代の祐乗作と伝えられる貴重な作例をはじめとした装剣金工の粹を、この機会に是非ご堪能いただきたいと思えます。

前々回の第2展示室特別陳列「北陸ゆかりの画聖たち」の紹介でもふれましたように、加賀の、京都と江戸との微妙な距離感、幕藩体制に屈従を強いられた加賀藩の独自性を主張する重要な一つ有効な方策として、文化政策の推進を促しました。加賀藩三代藩主の前田利常は、幕府から様々な圧迫を受けた京都の後水尾天皇を模範として、質・量ともに幕府を凌ぐ文化政策を打ち出しました。そしてその政策は、儒教や博物学的に深化されて五代藩主前田綱紀に継承されました。

加賀藩の文化政策は、大きく収集と育成に大別されます。名品の収集は、大名の格式を対外的に印象付ける重要な意義を持っていました。前田家の収集は、日本の古筆や典籍類から、広く中国や西洋の文物にまで及んでいます。しかし、単に世界各地から名品を集めることにとどまらず、

藩経営の一環として美術工芸の育成事業を行っている点に前田家の独自性があります。名工を招聘し、武具の制作や保守などで培われた技術の地盤を活用して、高い技術と洗練された美意識が融合した名作の数々が十七世紀を中心に加賀藩から生まれました。そして前田家十六代利為侯が、前田家に伝来した文化遺産の保全を目的とした公益法人育徳財団を設立したことにより、第二次世界大戦後の混乱期にも貴重な文化財が散逸を免れ、今日に至っています。

今回は「馬郎婦観音像」、「武家手鑑上帖」、「牡丹獅子造小さ刀拵」（金具：伝後藤祐乗拵・本阿弥光甫）以上の重要文化財が久々の公開となります。どうぞご期待ください。

## 第3展示室

# 鴨居 玲 ー道化師たちー

9月3日(水)～23日(火・祝) 会期中無休

ほぼ毎年、鴨居の命日、九月七日前後に館蔵品と寄託品による特集展示を行っていますが、今回は、「道化師」をテーマにしました。

鴨居の描く男性像には、いくつかのパターンがあります。安井賞を受けた「静止した刻」や「蛾と老人」などのベレー帽を被り黒いマントを着た男、スペイン時代の酔っぱらいや廃兵、帰国後に数多く描かれる自画像。ある時期にこうしたテーマが集中するのですが、道化師の場合は、「静止した刻」の頃からずっと折にふれ描かれています。白く化粧をして笑い顔を描いた道化師は、韜晦癖のある鴨居そのものであり、最後の自画像は顔を面であるかのように取り外し、のっぺらぼうになった「肖像」ですが、これは化粧を落とした道化師のより切実な姿といえるべきなのでしょう。

さて、最晩年の自画像は鮮烈な赤をバックに描かれます。最晩年といっても五十七歳で鴨居は生を終えるのですが、実は鴨居の父の亡くなった歳と同じです。「1982年私」を描いたとき鴨居は五十四歳でした。その段階で、もう描けないと白いキャンバスを前に茫然と腰かけているのです。しかし、その後の四年間の制作は、以前のテーマを再生産するものではありませんが、印象深い充実した作品が続きます。赤をバックにする道化師もその中の一つです。

では、バックはなぜ赤いのでしょうか。父の没年、その先には還暦が控えていると考えたとき、鴨居は自己の生まれ変わり、新たな誕生を赤いバックに込めたのでは、という想定も成り立つのではないのでしょうか。鴨居の特集、ぜひご覧ください。



鴨居玲「出を待つ」(部分)

## 第2展示室

# 仏画と肖像画

9月3日(水)～23日(火・祝) 会期中無休

「仏画」は、仏教絵画の略で、広義には仏の像や経典の内容など、仏教に関する題材を扱った絵画全般を指します。通常、礼拝の対象とされる仏教諸尊の画像をいい、寺院の壁画のほか、絹、紙、板に描いた絵画があり、版画なども含まれます。ことに古代から中世にかけて、すぐれたものが数多く、日本絵画史の上でも重要なものが少なくありません。仏画の歴史は、絵画の歴史そのものといえるでしょう。

一方、実在の人物を写して後世に伝えようとする欲求から生まれた「肖像画」は、わが国にあつて、信仰・崇拜・追慕・記念などの目的で描かれました。天皇や公家の肖像、祖師像・高僧像・頂相<sup>ちんそう</sup>、武將像・

武家の婦人像、学者・医者・町人・文人・芸能人などの肖像というように多種多様な内容のものが描かれ、絵画史的にも貴重なものが数多くあります。

本館では、旧館時代の昭和四十四年に「石川県の仏画」翌四十五年には「石川県の肖像画」で、県内全域から代表的な仏画や肖像画を集めて公開しました。その折、文化財保護の立場から当館に寄託をされた作品も少なくありません。

今回は、その中から金沢市指定文化財「涅槃図<sup>ねはん</sup>」(高巖寺)、石川県指定文化財「円地院妙浄大姉画像」(妙法寺)などをご覧いただきます。



金沢市文「涅槃図」高巖寺蔵

## 第4展示室

# 首と肖像彫刻を中心に

9月3日(水)～23日(火・祝) 会期中無休

顔はその人格や人柄・性格を代表する部位であることはいままでもなく、肖像彫刻・画の中心となる部分です。さらにその顔面を含んで頭・頸部からなる首は、人体中で最も表情が豊かであった、人体中でも美しくまとまった量塊を示していることから、古くから肖像彫刻として見え、さらに近代以降も彫刻制作の基本的で永遠のテーマとしても見えるものとなっています。展示では近現代彫刻作品の内、首と肖像を中心とする優品をご覧いただけます。首と肖像に込められた人間表現の多彩さとフォルムの多様さをお楽しみ下さい。



吉田三郎「高峰讓古像」

## 第5展示室

# 絵画的意匠の展開

9月3日(水)～23日(火・祝) 会期中無休

工芸作品にほどこされる意匠は、実にさまざまで、作品鑑賞の重要な見どころになります。もちろん、表面的な意匠だけを切り離してみるのではなく、その形や用途を含めて総合的な視点からとらえる必要がありますが、この特集では、とくに絵画的な意匠表現に注目してみたいと思います。

意匠また文様は、大別すると写実的(絵画的)なものとして抽象的(幾何学的)なものがあり、絵画的なものとしてモチーフとしては、植物・動物・人物・自然現象・文字などがあげられます。しかし、絵画的といっても、実在する対象をリアルに表現したものから、簡略化して再構成したものなど、作品によって抽象化の度合いが異なり、そこに作者の思考が反映されているといえます。

まず前者に該当する作品としては、安達陶仙「釉下

色絵鯛図花瓶」、石野竜山「色絵松遊鯉図花瓶」、前大峰「沈金猫文」けはひ「飾篭」などがあげられます。

次に、石黒宗磨「鉄絵鳥文鉢」、北出不二雄「青手鳥文台鉢」、大場松魚「平文相生箱」などが後者にあたるといえます。

そのほか、特に明治期の陶芸作品の中には、歴史風俗・説話などをテーマにしたものもあり、野村善吉「色絵金彩鷹狩図蓋物」、松本佐平「金欄手官女奏楽図双耳花瓶」、赤丸雪山「金欄手八岐大蛇退治図双耳花瓶」などは、当時の外国人好みの輸出工芸盛んなりし頃の面影を映し出しているといえましょう。

今回の展示において、工芸作品の中に、どのように絵画が取り込まれているかを、あらためて見つめ直してはいかがでしょうか。



安達陶仙「釉下色絵鯛図花瓶」大正

## 九月の行事予定

14日(日)	作家シリーズ 創作の原点8 人間像に迫る ロダン/シーガル 日本美術工芸 その手わざと美	(30分)
7日(日)	美術のみかた4 近代の人間像 日本美術3 風月のデザインー遠像と近像ー	(26分)
20日(土)	石川の油絵2 戦時期～昭和三十年代	二木伸一郎 普及課長
13日(土)	金沢の文化と茶道	高嶋清栄 学芸第一課長
6日(土)	国家仏教の発展と天平彫刻	谷口出 学芸第一課長
21日(日)	第一講 金沢城二の丸御殿について	日本建築史学者 東京工業大学名誉教授 平井聖氏
■土曜講座	午後1時30分～ 美術館講義室 聴講無料	
■百万石の文化講座	午後1時30分～ 美術館ホール 聴講無料	
■映像ギャラリー	午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料	

## 第7・8展示室

第99回

# 公募写真展研展

9月18日(木)～23日(火・祝) 会期中無休

## 第7～9展示室

第24回

# 北國水墨画展

9月6日(土)～9日(火) 会期中無休

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

### ◆入場料

一般・大高生／五〇〇円(前売料金・四〇〇円)  
中学生以下／無料

※当館友の会員は受付での会員証提示により前売料金になります。

### ◆連絡先

金沢市南町二番一号 北國新聞社事業局内  
「第二十四回 北國水墨画展」事務局  
TEL〇七六一二六〇―三五六八―

東京写真研究会が主催する研展は、関東、中部、関西、北陸の四支部で構成され、公募展は四支部巡回で開催されています。会員部門と公募部門に分けられていて、今回は三八〇点の作品が展示されます。

北陸支部においての入賞者は、会員部門が四名、公募部門は五名となりました。

合評会は九月二十一日(日)午後二時より行います。

### ◆入場料／無料

### ◆連絡先

金沢市東山二丁目二一八 土田貴夫  
TEL〇七六一二五一―〇七二三―

## 加賀象嵌制作ワークショップのご案内

当館の秋季企画展「工芸王国の実力!」には、明治期の驚くほど細密な技法で制作された金工作品が展示されます。それらは、加賀の地で培われた高度な加賀象嵌の技法を主体に制作されています。

このワークショップでは、金属の表面に模様を彫り、そこに別の種類の金属を嵌め込む加賀象嵌伝統の技を実際に体験していただくものです。そのことよって、外から観察するだけでは見えない制作工程を理解し、受け継がれてきたすぐれた技術を感じ取っていただけることと思います。

### ◆日時／十月十九日(日)

午前の部・午前十時～十二時  
午後の部・午後一時三〇分～三時三〇分

### ◆会場／当館講義室

◆内容／加賀象嵌の技法で、キーホルダーを制作します。  
(専門の講師の方にご指導頂きます)

◆定員／各一〇名(往復ハガキにて募集)

◆対象／小学五年生以上

◆参加費／一人五〇〇円(材料費)

◆協力／公益財団法人 宗桂会

◆申込方法(往復ハガキ一人一枚)

### 【往信の宛名面】

〒九二〇―〇九六三 金沢市出羽町二―一 石川県立美術館  
加賀象嵌制作ワークショップ担当宛

【往信の文面】参加希望者の氏名・年齢・住所・電話番号

【返信の宛名面】住所・氏名

【返信の文面】何も書かないで下さい。

【応募締切】九月三〇日(火)必着

※応募多数の場合、抽選になります。  
※参加費は、当日集めます。

# 特別陳列「北陸ゆかりの画聖たち

— 長谷川等伯・久蔵・左近、久隅守景 —

展示点数や空間が限定された特別陳列という場においては、いかに個々の作品を際立たせるかが課題となります。今回は高岡大法寺と高岡市美術館のご高配により、重要文化財の長谷川等伯（信春）筆「釈迦多宝如来像」と、同「鬼子母神十羅刹女像」の展示が実現しました。そこでこの名作の魅力を最大限發揮するために、仏画を仏画らしく展示することを今回特に心がけました。

まず展示する場所ですが、展示室全体の要として入口から正面に相對する形となるよう、奥の展示ケースの中心としました。そして高さですが、それぞれの画像で最も重要な如来や護法神を若干仰ぎ見る形で鑑賞していただくようにしました。こうすることによって、若き絵仏師として能登を拠点に活動した、信春時代の等伯の卓抜な技量がよくわかります。そして今回は等伯父子という視点から、収蔵する長谷川久蔵と左近の作品も展示に加えました。当館には、左近が描いた「十六羅漢図」（県文・大乘寺蔵）が寄託されていますので、中央に配置した「釈迦多宝如来像」と「鬼子母神十羅刹女像」の脇絵という形で左右に羅漢図を二幅ずつ展示しました。この羅漢図は羅漢講式のために左右から釈迦如来を仰ぐ形で描かれたものですから、等伯・左近の「合作」による荘嚴な空間が現出しました。このように、展示室の物理的な特性を活かした当館ならではの展示を、今後も鋭意実施したいと考えています。今回ご高配を賜りました関係各位に、改めて厚く御礼申し上げます。



## 企画展 TOPICS

# 「工芸王国の実力！」

— 魅惑の120選 —

会期：九月二十七日（土）～十月二十六日（日）

このたび開催予定の秋季企画展「工芸王国の実力！」では、見どころのひとつとして、当館で初めての試みを行います。それは、友禪の重要無形文化財保持者（人間国宝）・木村雨山の訪問着を実際に試着し、その姿を撮影したものをパネルにして、会場で作品とともに展示するというものです。モデルは、第十代・ミス加賀友禪の榊真梨さんにお願ひし、木村雨山作《友禪訪問着「あじさい」》（昭和四十五年）を試着していただきました。

着物に限らず工芸作品は、本来、使うということを念頭に置いて制作されます。しかし、美術品となると実際に使うということは、保存管理の面で難しく、視覚的に鑑賞していただくという方法が中心にならざるを得ません。着物の展示でも、衣桁にかけた状態で背面の柄を見ていただくことが一般的で、女性が身につけた姿を写真に撮りパネルに仕立てて作品と並べること、どこまで意匠がどのように見えるか、どのような効果を見せるか、どのような雰囲気を出すか等、鑑賞の大きな手助けになることと思われまふ。この機会にぜひご鑑賞ください。



木村雨山 友禪訪問着「あじさい」  
昭和45年



モデル  
ミス加賀友禪 榊真梨さん

# 祈りの美 — 京都・山城の寺社を訪ねて —

期 日 十月十八日(土)～十九日(日)・一泊二日  
日 程 出発：十八日午前七時／帰着：十九日午後六時頃  
発 着 金沢駅西口  
参加代金 友の会会員 二六、〇〇〇円／会員以外 二七、〇〇〇円

## ◆見学地

【萬福寺】黄檗宗大本山で、隠元禪師により開創されました。明朝様式の伽藍など、異国情緒が漂います。一日目の昼食は、こちらで普茶弁当(中国伝来の精進料理)をいただきます。

【平等院】修理を終えたばかりの国宝・鳳凰堂。ミュージアムでは平等院の文化財を間近でご覧いただけます。

【一休寺】一休宗純が晩年を過ごした寺院として知られ、一休にまつわる寺宝や名勝の庭園などを有します。

【海住山寺】かつての恭仁京を一望する三上山中腹に位置し、鎌倉時代の傑作、五重塔(国宝)で知られます。

【岩船寺】緑に映える古刹で、平安時代の仏像をはじめ、石造文化を偲ばせる石塔や石仏をご覧いただけます。

【浄瑠璃寺】平安時代の九体阿弥陀堂と九体阿弥陀如来像を残す唯一の寺院で、平安貴族の浄土信仰を伝えます。

## ◆申込方法

往復はがきに「文化財現地見学」希望と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・ご住所・お電話番号・会員番号を記入の上、ご応募ください。

※応募者多数の場合、抽選になります。

## 【宛先】

〒九二〇〇〇九六三 金沢市出羽町二二一

石川県立美術館「文化財現地見学」係

## 【応募締切】

九月二十七日(土) 必着

※移動は全て貸し切りバスを使用します。

※宿泊はお一人様一室(シングル)となります。

※行程に徒歩による移動や坂道、階段が含まれます。脚に自信のない方はご注意ください。

※参加代金には昼食二回と朝食が含まれます。十八日の夕食は各自でお取りいただきます。

## ミュージアムレポート 学校出前講座

### ズラズモミュージアム

美術館になかなか足を運べない学校に当館所蔵の近現代作品を選び、鑑賞方法の提案もさせていただいている学校出前講座。この講座への関心も年々高まり、今年度は開催校の募集を三月から開始しました。六月四日には川北町立中島小学校、十一日に小松市立安宅小学校、二十三日に加賀市立金明小学校、二十七日に中能登町立滝尾小学校と、六月に四校開催し、例年より早くこの講座の本格的なスタートとなりました。



今年度からはこの講座の中で、当館の子ども向け展示やキッズ・プログラムで活躍の三人のキャラクター、『みるみるくん』・『きくちゃん』・『かたろうくん』を登場させています。虫眼鏡を持って一所懸命見ようとしている『みるみるくん』を示して、「みるみるくんのように作品をよく見てね」と声をかけたり、耳に手を当て聞くポーズの『きくちゃん』を示して、「今度はきくちゃんになって、作品から音や声を聞いてみよう」と投げかけたりにしています。初めて体験する美術鑑賞や私たち学芸員との授業で緊張気味の子どもたちの雰囲気や和らげ、次の活動の見通しを持たせることなど、参加しやすく、また、わかりやすい講座内容にすることに一役買っています。

六月講座開講の四校は規模等も様々でしたが、鑑賞の時間には差があるものの、どの学校でも一年生から六年生の全校生徒に鑑賞していただきました。今後、本講座は九月末から十一月にかけて六校で開催の予定です。



竹内吟秋「色絵山水図大鉢」  
能美市九谷焼資料館蔵



初代山川孝次「金銀象嵌牡丹菊文銀瓶」  
公益財団法人 宗桂会蔵



西出大三 截金彩色合子「野分」個人蔵



米沢弘安「金銀象嵌鴛鴦香炉」当館蔵



富本憲吉「色絵更紗文蓋付飾壺」当館蔵



松田権六「蒔絵竹に雀図二段卓」個人蔵

次回の展覧会

会期:9月27日(土)~10月26日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内
加賀藩の美術工芸		加賀の工芸		
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室	コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※( )内は団体料金
法 邑 利 博 — 加賀の幻想 —	近代彫刻優品選	石川の工芸(前期)	ふれる美術	今月の開館時間 午前9:30~午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休
				9月の休館日 1日(月)・2日(火)・24日(水)~26日(金)

Meiカード

ポイントプラスデー

毎週水曜日は  
エムザでお買物

Meiカード  
通常ポイント

+

3%  
ポイント  
プラス

広告

MEITETSU  
MIZA

めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)  
www.meitetsumza.com  
10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

石川県立美術館だより  
第371号(毎月発行)  
2014年9月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/